



山上福訓(2)【悲しむ者が幸いです。】

聖書本文：マタイの福音書 5 章 1-10 節 / 暗唱：マタイの福音書 5 章 4 節

説教者：鄭南哲牧師

愛する信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安で守られましたか。始まっている新しい新学期のこの 4 月、もう一度主の御前で私たちの考えを、姿勢を、生活を改めて切り替え、神様の御前で最高の結果よりも変わらない最善と誠実の過程を尽くそうとするクリスチャンプレイズチャーチのすべての神の家族となりますように主の御名によって祝福します。アーメン。

＜ 本文 ＞

今日は先週に続いてイエス様が教えてくださった山上での 8 つの中で二つ目の祝福のメッセージと一緒に考えてみたいと思います。今日の本文 4 節には“悲しむものは幸いです。その人は慰められるからです。”

この世の人たちは“笑えば福がやってくる”と言いますが、イエス様は“悲しむものが幸いだ”と言われています。とてもおかしくありませんか。イエス様の今日の御教えもこの世と逆に言われているようです。

神様の前でただ笑うことが祝福でしょうか。

信仰の兄弟、姉妹のみなさん！この世はいつも笑うことが祝福であり、幸福だといわれますが、聖書もそうですか。旧約聖書の時代、特にエレミヤ預言者の時代に、にせ預言者たちにむかって神様が御怒りを表す部分がかかれていました。神様の御前で犯した罪によってイスラエルは滅ぼされ自分たちの家族や子孫が苦しめられることを予言し、罪から立ち返りなさいと預言者たちを通して神様はご自分の心を示していました。旧約のエレミヤ預言者は涙をもって懇切にこの事実を訴えました。ところがこんなに深刻な状態にもかかわらず一方、にせ預言者たちは神様の民たちにむかって“平安だ、平安だ！笑え！大丈夫だ！”と宣言しました。

その時、みなさん！イスラエルの民たちはどちらに耳を傾けるでしょうか。罪による滅びを予言した神様の 預言者からの話でしょうか。それとともにせ預言者たちの話でしょうか。人は当然自分の耳にあまり言葉だけを聞いたがる傾向がありませんか。むしろにせ預言者たちの言葉は罪を犯したイスラエルの民たちが神様の御前で悔い改め、回復する機会すら隔（へだ）てしまい、実際イスラエルは B. C 722 年、アッシリアに、B. C 586 年バベロンに征服され、悲惨な奴隷の生活が始まったのです。

旧約の詩篇 56 篇 8 節を読んでもとダビデは敵に追われながら “どうか私の涙を、あなたの皮袋にたくわえてください。”と神様に訴えました。子供を産めなかったハンナは “心が痛んでいて、主に祈って、激しく泣いた。”と記録されています(第一サムエル 1:10)。神様に向かって自分の悩みと痛みを打ち明ける人、つまり神様にむかって泣く者は幸いであることを私たちは聖書のあっちこっちで見つけることができます。しかしイエス様は神様に向かって泣くものは幸いです、神様と断絶されたまま笑う人は哀れな者だと言われました。ルカの福音書 6:25 節の後半です。“今笑っているあなたがたは、哀れなものです。やがて悲しみ泣くようになるからです。”

今日この世の雰囲気は“たとえ明日死ぬとしても今日は飲んで食べよう。”こういった類ではないでしょうか。イギリスの詩人エドワードヤングは”あなたの悩みは古いカバンに入れ、スマイル、スマイル、スマイル!”という詩を書きました。今日多くの人々は笑い番組をみて、笑うためにお金と情熱をかけます。肯定的よりかむしろ享楽にふけている世のように見えます。

もちろんユーモアも必要だし、笑うことも必要です。笑うと福がやってくるという言葉も部分的には正しいかもしれませんが。笑うとエンドルフィンというホルモンが出て私たちの体を健康にさせ、余裕ができ、ストレス性病も治します。しか

しいつも笑うことですべてが解決されるわけにはいきません。状況を考えないで、ただ笑うことがむしろ良くない時もあるのではないのでしょうか。たとえば、重患者室にはいつて肯定的に考えなさいといいながら、にやにや患者さんの前で笑うとどうなりますか。それは患者さんをさらにあざわらうことになってしまうのではありませんか。同じように神様の前で罪によって自分が不幸で、大変で、死にそんな状況の人たちにとりあえず楽しもうということは正しくありません。

悲しむ者とは？ どんな人ですか。

みなさん！ 普通、人々は自分の罪に対しては鈍感で、寛大です。しかしほかの人の罪と過ちについては敏感できびしいです。ほかの人々が間違ったことについて“信じられない、そんな常識ではないことをするなんて。ありえん。”と興奮し、怒る人が自分が同じように犯したことに対しては“人間がそうすることはあたりまえじゃないか。ありえるしさ。”と堂々と主張する私たちではないのでしょうか。しかし神様に用いられる人々は 普通の人たちとは正反対の行動を示します。ほかの人が間違った時は、そうする時もある事だと励まします。しかし自分自身が間違ったときは心を痛みながら、どうしようどうしようとします。

自分が神様の前で罪人であることをさとし、そのために悲しむ人こそ幸いな人であり、すばらしい人です。なぜならそれがまさに信仰の基礎であり、一番大切なことだからです。信仰とはイエス様が自分の救い主であることを信じ、受け入れることですが、まず自分が罪人であることを心から悟らなければ心からイエス様を受け入れることは当然できない事ではありませんか。

今日の御言葉で、悲しむ者はどんな人ですか。悲しむ者とはただ感情的に悲しむ者、うつになった人ではありません。悲しい感情の表現の以上です。ギリシャ語の実際の意味は胸をたたきながら骨がおれるほどの苦しみがともなった時の悲しみを表現する時使う単語でした。感情を隠さない正直な叫びです。神様に向かっての訴えと絶叫です。まるで愛する人が死んだときの慟哭するような程度です。

先週も強調したように、今イエス様が言われる対象はイエス様の弟子たちとイエス様を追いかけていたものたちだった事を覚えましょう。ですから悲しむ者は一次的にはこの世で神様を信じるため迫害を受け、苦難と苦しみを受けている人、それで心のもどかしさとかやみのため神様の御前で泣く人を意味します。つまり神様のため泣く人、信仰を守るため受ける苦しみと痛みのため泣く者です。ですからイエス様を信じることのため思い煩い、恐れなくてください。神様はむしろそのような人たちが幸いだといわれ、祝福してくださいます。そしてそのような人たちを慰めてくださいます。イエスを信じる自体が難しいこの時代、この地において私たちが希望をもって信仰を持ち続けていける理由はまさにこの約束の御言葉があるからではないのでしょうか。そしてさらに広い意味では御言葉どおりにいきることができないため、苦しんで、悲しんでいる人を意味します。つまり、自分の罪と他人の犯した罪のため心を痛みながら悔い改め、神様からの赦しと哀れみと恵みを慕い求める者がまさに神様の前で悲しんでいる者です。

なぜこんなに神様の御前で悲しみますか。イエス様が言われたこの悲しみは心の貧しい結果として湧き出てくる悲しみだからです。すなわち、神様の御前で自分が霊的に破産の状態であることを認めることが心の貧しいことであり、そのため心痛みながら慟哭する事が悲しむことです。 心の貧しい事は神様の前で自分の霊的状态の貧困を認める事であって、その事実のため神様の御前で泣く事が悲しむことです。

神様はこのような信仰の人を探しておられます。旧約聖書ヨエル書 2:12-13 節と一緒に探して読んでみましょう。“「しかし、今、・・主の御告げ。・・心を尽くし、断食と、涙と、嘆きとをもって、わたしに立ち返れ。」

あなたがたの着物ではなく、あなたがたの心を引き裂け。あなたがたの神、主に立ち返れ。主は情け深く、あわれみ深く、怒るのにおそく、恵み豊かで、わざわいを思い直してくださるからだ。”

イスラエルの民が罪を犯したためバビロンの捕虜になってから、回復され故郷であるエルサレムに戻って来た時イスラエルの民を正しく導いた指導者エズラはイスラエル民族の罪のため激しく泣きながら祈ったと書かれています。“エズラが神の宮の前でひれ伏し、涙ながらに祈って告白している時、イスラエルのうちから男や女や子どもの大集団が彼のところに集まって来て、民は激しく涙を流して泣いた。”（エズラ 10：1）

愛する信仰の家族のみなさん！

このように神様の御前でまことに自分を探る者は自分の罪のため悲しまざるを得ません。信仰の日々は毎日の生活を終える時、一日の自分の生活をさぐります。‘自分は神様の御前で今日何をしたのか。何を話したのか。何を考えたのか。神様の前で、自分は他人にどうやって接したのか。’ それを考えると神様の御前で自分が今日もどれだけ罪人だったのか、胸をたたかざるを得ません。1740年10月18日アメリカインディアン土着民の宣教師だったブレイナドの日記にはこのように書かれています。“朝、神様に祈る時間、私の魂は苦しみ悲しんだ。自分のひどい罪と悪性のため悲しんだ。” このようにクリスチャンたちは神様の前で御言葉とおりに生きることができない自分の姿と罪のためのみならず、ほかの人と自分の民族の罪のためにも悲しみ、悔い改めながら祈る人です。

今日私たちの問題はこのような嘆きがなくなっている事ではないでしょうか。罪にたいして指摘されることを信徒たちは好まないようです。人々の前だけではなく、教会内でも、神様の御前にでさえ自分の体面のため罪を隠しながらお互い、きよいふりをする人々がどれだけおおいのかわかりません。値（あたい）なしのイエス様の十字架の恵みだけを強調したあまり、罪の深刻性についてはないがしろにする傾向が教会にはないでしょうか。神様の愛と恵みだけを強調し、罪の深刻性について扱わないことはたしかに聖書的に均等ではありません。幸いな悲しみは中身から湧き出て自分たちの姿と行動まで支配します。今日自分は天からの慰めが必要ですか。世の人たちから与えられない神様からの慰めを受けるほど自分は神様の前で、罪に対して悲しみ、悔い改めていますか。

するとわたしたちクリスチャンたちはいつも泣きながら生活するべきでしょうか？

みなさんの心にこのような疑問があるかも知れません。先生！私たちがいつも罪を犯しながら生きているのだからいつも神様の御前で泣きながら生きるべきでしょうか。いつも悲しむべきでしょうか。結論から申しますと、喜ぶべきなのか、悲しむべきなのかこの二つの調和が我らの信仰生活に必要だと思います。イエス様は御霊によって喜ばされ、涙を流したときもあります(ヨハネ 11:35)。使徒パウロも泣く時も喜ぶ時もありました。ピリピの手紙で“というのは、私はしばしばあなたがたに言って来たし、今も涙をもって言うのですが、多くの人々がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。(ピリピ 3:18)”，“いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい(ピリピ 4:4)。”

私たちは神様がくださった救いのため、神様のくださった恵みと愛のため喜び、罪赦された事のため喜び、私たちの人生の目的と意味と情熱と確信と信仰をくださった事により、この世のどんな人たちより喜び、感謝する日々をすごさなければなりません。聖霊に満たされれば御霊の実としてかならず喜びがあふれます。しかし聖霊に満たされると同時に神様の御心のとおりに生活できなかつた罪への悔い改めの嘆きも必要です。

聖霊に満たされている人、神様の恵みが満ち溢れる人はいつも笑顔で、わらわなければならないように考えることは間違いです。神様の御心に従えなかつた自分の罪と他人の罪のため、この社会の腐敗と不正のため悲しむときもあるからです。実際、クリスチャンは神様に近づけば、ちかづくほど神様の栄光を隠すすべての事についてますます悲しむことになるということです。

ダビデはこのように告白しました。“私の目から涙が川のように流れます。彼らがあなたのみおしえを守らないからです(詩篇 119:136)。” エレミヤ預言者もこう告白しました。“もし、あなたがたがこれに聞かなければ、私は隠れた所で、あなたがたの高ぶりのために泣き、涙にくれ、私の目は涙を流そう。主の群れが、とりこになるからだ。” (エレミヤ 13:17)。

慰めの祝福

今日イエス様は“悲しむものは幸いです。その人は慰められるからです。”と言われました。

この慰めは神様に慰められることを意味します。神様の赦しと恵みを切に求め、自分の罪のため悲しむ人、イエスを信じるだけで周りから迫害され、苦しめられている人々に神様は私たちのすべての事情をご存知、すべての涙を洗い、天からの赦しと慰めで慰めてくださるということです。そのとき私たちは真の自由を知り、どんな試練と艱難にあっても喜ぶことができると信じます。

“慰められる”という言葉は現在この世でイエスを信じるため、そして神様の前で生きるため日々、自分の罪のため悲しみ、神様の御言葉のとおり生きようとする人がいれば、その人はこの世であっても日々神様からの慰めを受けるという現在の約束の意味が含まれています。それだけではなく、やがて入る神様の御国での完全な慰めと祝福を意味します。つまり、私たちの死後、神様の御国、天国で味わえる慰めと喜びの意味も含まれています。

アラブのことわざに“光だけ照らされる地は砂漠になる”という言葉があります。むしろ涙と悲しみの谷間に希望の扉と祝福の扉があります。まことに信仰の人は人生の暗い夜、嘆きと叫びの夜を通過した人です。

今日も神様はこのような人とともにおられると信じます。イエス様は心の傷ついた人を慰めてくださる慰労者です(ルカ 2:25, イザヤ 61:1, 黙示録 7:17)。イザヤ 61:1-3 節はイエス様についてこのように予言しています。ご一緒に探してみませんか。“神である主の霊が、わたしの上にある。主はわたしに油をそそぎ、貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者をいやすために、わたしを遣わされた。捕われ人には解放を、囚人には釈放を告げ、主の恵みの年と、われわれの神の復讐の日を告げ、すべての悲しむ者を慰め、シオンの悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、悲しみの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるためである。彼らは、義の樅の木、栄光を現わす主の植木と呼ばれよう。”

黙示録 7:16-17 節には慰めのイエス様がやがてくる御国で私たちをどうやってなぐさめてくださるかが書かれています。

“彼らはもはや、飢えることもなく、渇くこともなく、太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはありません。なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです。”

涙があり、悲しみ、さびしく、罪あるこの世でまた一週間生活しながら、みなさんはだれよりも神様からの慰めと赦しを経験しなかったかもしれません。しかしもしかするといままで、死んだ神様のように、神様のすばらしい恵みと慰めを経験されなかったなら、今日御言葉をとおしてさとするように願っております。結局、問題は神様にあるのではなく、真心をもって悲しみ、求めなかった自分の信仰の態度に問題があることに気づいてほしいです。

神様の前で自分の信仰はどうでしょうか。今日神様の御前で自分の祈りはどうでしょうか。毎週日曜日に神様に捧げる礼拝はどういう心構えで出るでしょうか。神様の前で悲しむ心がありますか。悲しみながら涙で、むねをたたきながら切迫のところで“主よ！大変です。生きることが苦しいです。口先では神様を愛すると歌いながら、生活では罪を犯し、御言葉のとおり生きることができない、信仰のないこの罪びとを赦してください。哀れんでください。私を清めてください。”悲しんで、神様の赦しと哀れみと恵みを慕い求める者に神様からの赦しと哀れみを経験されると信じます。

＜まとめ＞

新しく 4 月、神様がくださった命と人生の目的と意欲と勇気と夢のため人々の前でいつも喜び、自信をもって堂々と生きましょう。しかし罪のため悲しむ者は幸いで、その人は神様から慰められるという約束の御言葉も覚えましょう。今週一週間、今月、神様の御前でまことに悲しむ者になりましょう。そして悲しむ者たちに約束された神様からの慰めと回復を味わうクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！

